

講義名	リスクマネジメント論			授業形態	
担当教員	持田 信治	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

本講義の主題は本学のディプロマポリシーに沿って、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、論理的な思考に基づいた具体的な改善策や解決策の提案ができるようになることである。具体的には、本講義は企業活動に於けるリスクマネジメントの基本と手順の理解を深めることを主題とする。企業経営には様々なリスクが存在する。また業務遂行に於いて最も重要な事項にスケジュール管理とリスクマネジメントがある。そこで本講義ではリスクとは何かを解説した後、リスクの評価とリスクを回避する方法について解説を行う。本講義の主題はリスクマネジメントとは何を行うことができるかを理解することである。そしてリスクの分類、評価、対応について具体例を用いた説明を行う。

到達目標

- 以下を本講義の到達目標とする。
- (1) 企業経営に於けるリスクマネジメントの基本的な考え方が説明できるようになる。
 - (2) リスクマネジメントの内容とリスクマネジメントのポイントを説明できるようになる。

提出課題

講義の終わりに当該講義に関する小テストを行うことがある。また、講義内容に関するレポートの提出を要求することがある。小テスト及び課題の提示はR E S P O Nにより行う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題の解説や質問に対しては、必要に応じて次の講義で解説と説明を行う。小テスト及び課題の提示はR E S P O Nにより行う。

評価の基準

- (1) 評価は講義への参加度合いと課題の提出状況により算出する。
- (2) 授業参加度と小テストが50点、そして試験又は課題を50点で評価する。
- (3) 課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。
- (4) 授業参加度の確認と小テスト及び課題の提示と回収はR E S P O Nにより行う。

履修にあたっての注意・助言他

- (1) 授業の運用方法、評価基準、受講ルール等の重要事項を初回の授業で説明するので、履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。
- (2) 対面講義においてはノート、筆記用具を準備しておくこと。
- (3) 対面講義においては講義中の私語、飲食、力じや教養物を机に並べること及び途中入室、途中退室、携帯電話の使用は厳禁とする。ルール違反者は厳重に対応する。場合によっては退室を命じることもある。
- (4) 対面講義においては質問を行う等の積極的な参加を期待する。
- (5) ポータルに資料がUPされている時は事前に確認しておくこと
- (6) 講義への積極的な参加を希望する。また講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

教科書

.使用しない.

参考図書

.なし.

その他

必要に応じて、教材をポータルにUPする。参考文庫は適宜紹介する。

授業計画

- 第1回 リスクマネジメントとは
 予習：シラバス並びにR Y U K AポータルやキャンパスクロスにUPされた資料があれば確認する(120分)。テキストは1回目に配布する。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。そして復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第2回 企業経営のリスク
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第3回 リスクの分類とリスクマネジメントの基本
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第4回 社会生活に於けるリスク
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第5回 ヒューマンエラーの防止とモニタリング
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第6回 リスクマネジメントの進めかた
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第7回 リスクマネジメントの手順
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第8回 定性的リスク分析
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第9回 定量的リスク分析
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第10回 リスク管理表と対策の立案
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第11回 プロジェクトとリスクマネジメント
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第12回 リスクマネジメントと内部統制
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第13回 企業活動とリスクマネジメント
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第14回 リスク評価と確率
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第15回 リスクマネジメントのまとめ
 予習：シラバスやテキストを確認して、これまでの講義内容をまとめる。疑問や質問があればまとめておく(120分)。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経営学科共通のDPについて
 目標(1)、(2)を達成することで共通DPである。業界動向や問題点を理解するための基礎知識を身に付け、企業マネジメントに関する問題探索、課題提案ができるようになる。品質マネジメントは企業マネジメントの基礎である。

経営幹線コースについて
 目標(1)と(2)を達成することでDP である。経営の仕組みについて考え、自ら考え、理解できるようになる。目標(2)を達成することでDP である。の現状分析を行い、具体的な改善策や解決策の提案ができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
 過去のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、企業活動に於けるリスクマネジメントのポイントを解説する

備考

問題意識を持って講義に参加すること。